

Global Express

SAMPLE vol. 8 2008 February, CHINA

グローバル・エクスプレス サンプル版第8号 2008年2月発行

このアクティビティは開発教育全国研究集会(2007年8月4日・東京)で実施したものです

どうなる？中国！

アクティビティ1: 部屋の四隅

この教材の著作権は(特活)開発教育協会に所属し、本誌の全部または一部を無断で複写・転載・引用・要約することは禁じます。本誌の「生徒用ワークシート」の複写による利用は、学問的な利用、教室・研究会等での利用に限ります。

発問の例

Q1. 中国の面積は、日本の何倍？

- 15倍
- 20倍
- 25倍
- 30倍

Q2. 中国に進出している日本の企業数は？

- 200社
- 2000社
- 12000社
- 20000社

Q3. 中国への旅行者数に占める日本人の割合は、世界何位か？(台湾・香港は除く)

- 1位
- 2位
- 4位
- 10位

Q4. 中国にいる日本の特派員はどれくらいか？ (ヒント：アメリカは14人、韓国とタイは3人)

- 15人
- 10人
- 9人
- 4人

目的：

アイスブレイキングとして中国と日本に関する情報を共有する。

対象：小学校中学年以上

備品：なし

所要時間：10～15分

すすめ方：

1. 中国に関する四択のクイズ問題や質問をし、回答ごとに会場(教室など)の四隅に分かれてもらう。
2. どうしてその回答を選択したか、何人かに聞いてみる。
3. 全体の意見を聞いて、どう思ったか振り返る。

答とデータの出典：

Q1: で約25倍の面積があります。人口は13億人いるといわれています。大きな国ですね！

外務省国別データより

Q2: の約20,000社です。中国と日本は経済的にも強いつながりを持っています。

JETRO 統計より

Q3: の1位です。2006年はなんと370万人もの方が中国に旅行したそうです。

国際観光振興機構データより

Q4: の9人です。そのほとんどは首都の北京に滞在し、日本に中国のニュースを届けます。

「日本新聞年鑑」より

アクティビティ2: イメージはどうつくられるか

目的:

ニュース報道にはどのような偏りがあるのか(ないのか)を考える。

私たちのもつイメージは、どのようにつくられるのかを考える。

メディアから受ける影響に気づき、メディアとどう付き合っていけばよいかを考える。

対象: 小学校中学年以上

ワーク1: 気になるニュースをあげてみよう

備品: ホワイトボード、白紙(A3程度)、ペン、新聞記事

所要時間: 15~20分

すすめ方:

参加者を4~6人のグループに分ける。

各グループに白紙とペンを配り、「最近最も気になる中国のニュース」を思い出せるだけたくさん書いてもらう。

どんなニュースがあがったかを発表してもらい、ホワイトボードに書き出し全体で共有する。それらを「ネガティブなニュース」と「ポジティブなニュース」に色分けし、分類してみる。

どちらでもない「グレー」なものがあってもよい。

判断する際、意見の分かれるニュース項目に対しては、なぜネガティブまたはポジティブだと思うのかを参加者に問いかけながら進める。

をもとに、ニュース報道にどのような偏りが見えるか(見えないか)、どんなイメージを自分が持っているかを確認する。

直前1週間の新聞記事(見出しだけでもよい)を提示し、実際にどんなニュースが中国に関して多いか、みんなで確認する。

ワーク2: わたしの気持ち

備品: 新聞記事「“ダンボール肉まん”は捏造」、ワークシート「わたしの気持ち」

所要時間: 20~30分

すすめ方:

新聞記事「“ダンボール肉まん”は捏造」(2007年7月19日朝日新聞)を配り、丁寧に読んでもらう。

ワークシート「わたしの気持ち」を配り、このニュースについて感じたこと、自分の気持ちに最も近いものを3つ選び、印をつけてもらう。ここに書かれている以外に自分の気持ちを表す言葉があれば、空欄に書き入れてもよい。

グループ内で、互いに自分がどれを選んだか、なぜそれを選んだのかについて、話し合ってもらおう。

全体に次の問いかけをし、意見を交換する。

- ・ このニュースを知っていたか? どれくらい知っていたか?
- ・ メディアが一斉に“ダンボール肉まん”を報道したとき、「これは捏造ではないか」と考えたか? なぜそう考えたのか、またはなぜそう考えなかったのか?
- ・ “ダンボール肉まん”の報道を信じた人が多かったのは、なぜだろうか?(中国に対するイメージが、報道への判断に影響を与えたのか?)
- ・ このニュースは真実を伝えているだろうか?(メディアは真実を伝えられるか?)

新聞記事「“ダンボール肉まん”は捏造」

「ダンボール肉まん」は捏造 北京テレビが謝罪 外部スタッフ「自作」

【北京 = 峯村健司】中国・新華社系のインターネットニュース「新華網」などによると、北京市内の露店が溶かしたダンボールをひき肉に練りこんで「偽装肉まん」を作っていたと報道した北京テレビは 18 日夜、この報道について「捏造だった」と謝罪した。北京市公安局が、報道にかかわったテレビ局の外部スタッフの身柄を拘束して、取り調べている。

問題の放送は今月、北京市内の露店が豚肉と、水酸化ナトリウムに溶かして黒っぽく変色させたダンボールを 4 対 6 の割合で混ぜ、香料を足して偽肉まんを作っている様子を隠し撮りのような形で放映したもの。国内外のメディアに取り上げられ、反響を呼んだ。

しかし、市公安局の調べによれば、実際にはテレビ局の外部スタッフが自ら持ってきたダンボール片を出稼ぎ労働者 4 人に渡し、豚のひき肉と混ぜるよう指示。その様子を家庭用ビデオカメラで撮影していた。北京テレビは「事実でない放送を流した結果、社会に重大な悪影響を与えたことをおわびします。今後管理をより強化し、虚偽報道を根絶する」と謝罪した。

この問題をめぐっては、北京市食品安全局などが市内で抜き打ち検査をしたが、ダンボール入り肉まんは見つかっていなかった。

(朝日新聞 2007 年 7 月 19 日)

ワークシート「わたしの気持ち」

この記事を読んで、わたしの気持ちは...

すごい	ずるい	しょうがない
よく分からない	うれしい	残念だ
安心だ		複雑
大変だ	がんばれ!	感心する
大丈夫?	やっぱり...	悲しい

アクティビティ3: 日本と中国のつながりを考える

目的:日本と中国が、互いにどのような意識をもっているのかを知り、日中のつながりを考える。

対象:小学校中学年以上

備品:ホワイトボード、ワークシート「中国に対する意識調査」、資料「日本に対する意識調査」

所要時間:15～20分

すすめ方:

ワークシート「中国に対する意識調査」を配り、回答してもらう。

問いごとの答を挙手してもらい、全体の結果(数と割合)をホワイトボードに記入する。

中国人を対象に行われた同じ質問項目の調査結果(資料)を配る。

と をもとに、日中の意識の違いが見られるかどうか、全体で振り返る。

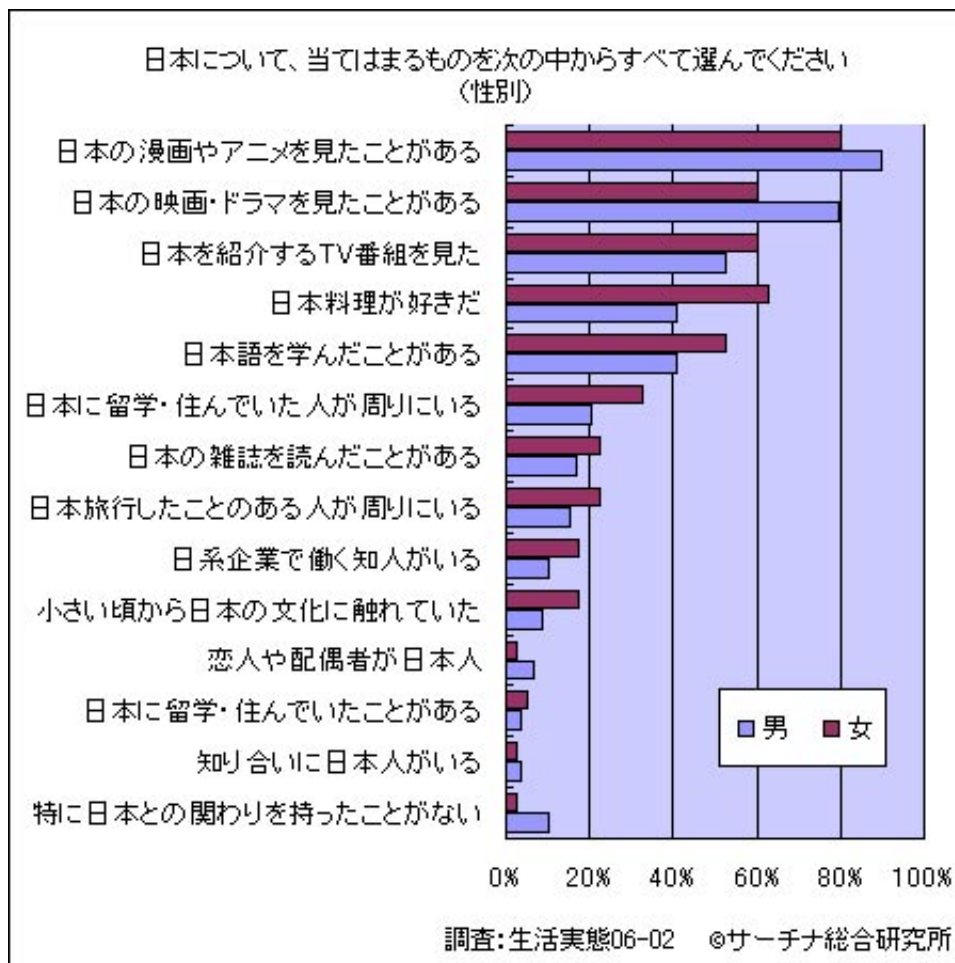
ワークシート「中国に対する意識調査」

中国について次の問いに答えて下さい

1	中国の漫画やアニメを見たことがある	はい / いいえ
2	中国の映画・ドラマを見たことがある	はい / いいえ
3	中国を紹介する TV 番組を見たことがある	はい / いいえ
4	中華料理が好きだ	はい / いいえ
5	中国語を学んだことがある	はい / いいえ
6	中国に留学・住んでいた人が周りにいる	はい / いいえ
7	中国の雑誌を読んだことがある	はい / いいえ
8	中国旅行をしたことのある人が周りにいる	はい / いいえ
9	中国系企業で働く知人がいる	はい / いいえ
10	小さい頃から中国の文化に触れていた	はい / いいえ
11	恋人や配偶者が中国人	はい / いいえ
12	中国に留学・住んでいたことがある	はい / いいえ
13	知り合いに中国人がいる	はい / いいえ
14	特に中国と関わりを持ったことがない	はい / いいえ

資料「日本に対する意識調査」

【定点調査】レジャー・エンタメに関する消費者意識調査2007(56)



出典:中国情報局 NEWS 2007/07/25(水)

http://news.searchina.ne.jp/disp.cgi?y=2007&d=0725&f=research_0725_003.shtml&pt=large

アクティビティ4: 中国はどこへ行く

目的:今の中国と60年代の日本の似ている状況を表した写真・新聞記事を見て、今後の中国がどの方向に向かうのかを考える。

対象:小学校中学年以上

備品:写真資料、新聞記事(見出し)、付せん(または白紙)

所要時間:50~60分

すすめ方:

参加者を4~6人のグループに分ける。

写真資料と新聞記事を、各グループに1セットずつ配布する。

(1)写真資料を見て、「いつごろの、どこ、何の」写真か、グループで考えてもらう。

(2)新聞記事(見出し)を見て、「」にあてはまる国名を、グループで考えてもらう。

グループでどのような意見が出たかを発表してもらいながら、解答・解説を行う。

今の中国と同じような状況が日本にもあったことを確認し、その後の日本がたどった道を示しながら、今後の中国がどの方向に行くのかを考えるきっかけとする。

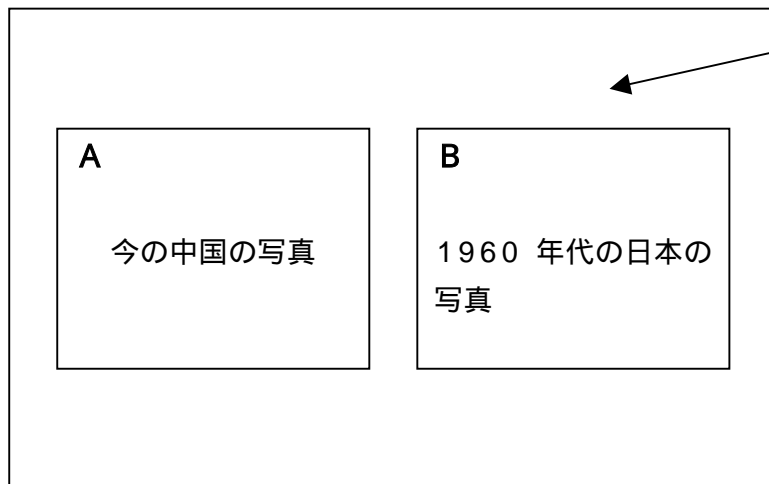
中国が日本の後を追っている“遅れた国”という固定観念を、参加者が持たないようにする配慮は常にしておく。参加者に付せん(または白紙)を配り、「20年後、どのような中国になってほしいか」を書いてもらう。それをもとに、グループ内で議論してもらう。

「(大きな)中国の問題は世界の問題となるでしょうし、ひいては私たち(日本)の問題でもあります」といった旨の話は踏まえておく。

グループごとにどんな意見が出たか、議論になったかを発表してもらい、全体でふりかえる。

話が中国のことだけに偏るようであれば、「翻って日本はどうでしょうか？」などと投げかけ、中国で起こっている問題は私たちとつながっているのでは、という視点を提示するとよい。

写真資料の作り方



- ・ A3 白紙に、今の中国の写真(A)と、1960年代の日本の写真(B)を対にして貼る。

- ・ キャプション(説明)は、記載しない。

< 写真の組み合わせの例 >

1)

A 四川省の出稼ぎ風景(中国情報局 <http://news.searchina.ne.jp/> より)

B 岩手県の集団就職(アーカイブス山田編 <http://www.uchinome.jp/archives/yamada/yamada.html> より)

2)

A 中国の炭坑夫:2005年、死者108人を出した事故(中国情報局 <http://news.searchina.ne.jp/> より)

B 日本の炭坑夫:1956年、長崎県(『日本写真全集10 フォトジャーナリズム』小学館 より)

3)

A ごみの埋め立て地:2007年(中国情報局 <http://news.searchina.ne.jp/> より)

B 羽田空港付近のゴミ:1964年(『田沼武能写真集 東京の戦後』筑摩書房 より)

4)

A 上海の高層ビル(中国情報局 <http://news.searchina.ne.jp/> より)

B 東京の高層ビル(『田沼武能写真集 東京の戦後』筑摩書房 より)

このアクティビティには、中国と日本を重ねることで、近代化や工業化、豊かさ、貧困、公害、自分の生活などの位置や関連に対する気づきが得られるのではないかとという視点があります。その意味で、次の2冊もおすすめです。

石井實 『東京 写真集 都市の変貌の物語 1948～2000』KKベストセラーズ

金子桂三 『東京 忘却の昭和30年代』河出書房新社

新聞記事

<見出しの組み合わせの例>

- 1) A . 環境汚染に高い代価
野菜・米にも残留
酪農使用は全く手放し
B . 食の安全 が苦慮
「危ない」評判 迫られる品質管理
答：Bの には「中国」が入ります。
(朝日新聞 2007年7月25日より)
- 2) A . 開発ブームにわく 西オーストラリア
鉄鉱石・ニッケルなど
多くは 向けねらう
B . とアフリカの蜜月
「人権軽視」と欧米批判
答：Aの には「日本」が、Bの には「中国」が入ります。
(A：朝日新聞昭和42年11月15日 / B：毎日新聞2007年5月27日より)
- 3) A . GNP60兆円突破
1人当たり なお世界16位
B . 、8%成長目標
雇用創出900万人
国防費、17.8%増 抜く
答：Bの1行目 には「中国」が、3行目 には「日本」が入ります。
(朝日新聞2007年3月5日より)
- 4) A . 交渉開始申し入れ
綿製品輸出 大使、米に
既製服ボイコットに抗議
B . 繊維交渉が合意
対 輸出 21品目、08年まで規制
答：Bの1行目 には「米中」が入ります。2行目 には「米」が入ります。
(朝日新聞2005年11月9日より)

Global Express ニュース



レポート、感想をお寄せください

<http://www.globalexpress.jp/>

ウェブサイトからの教材ダウンロードも、とても多くの方にご利用いただいています。タスクチームでは、教材をご覧になった感想や、レポートを募集しています。

「こう使った」「ここが使いにくかった」「こんな風に応用させた」等々、どんなことでも結構です。

実践報告をウェブサイトの「実践レポート」コーナーに掲載することもできますので、ご希望の方は下記 DEAR 事務局(担当:中村、西)までご連絡ください。

グローバル・エクスプレス日本版 第1号～5号 好評領布中！

教育の現場で活用できるアクティビティが詰まったグローバル・エクスプレス。ぜひセットでお求めください。

セット: 会員価格 3,360 円(税抜 3,200 円)、一般販売価格 4,410 円(税抜 4,200 円)

- 第1号 ニュースに耳を傾ける(基本編)
- 第2号 攻撃を超えて(9.11 同時多発テロとイスラム)
- 第3号 難民(難民、日本における難民政策)
- 第4号 イラク(イラク問題、紛争の解決)
- 第5号 戦争報道(イラク戦争と報道)



➔ 「グローバル・エクスプレス サンプル版」について

- ・グローバル・エクスプレス・タスクチームが時事問題をテーマにした教材を速報アクティビティとして提案します。
- ・このサンプル版は、一定期間経過後、グローバル・エクスプレスのホームページ(www.globalexpress.jp)に掲載されます。
- ・速報アクティビティへのご意見・ご提案・実践報告は大歓迎です。
- ・今年度、グローバル・エクスプレス・タスクチームには、ほとんど活動予算がありません。ご寄付も歓迎します。
(ご寄付は、セミナー開催費用、冊子印刷費用、HP維持費、資料購入費などに利用いたします)

➔ この教材のご利用について

この教材の著作権は(特活)開発教育協会に所属し、本誌の全部または一部を無断で複製・転載・引用・要約することは禁じます。本誌の「生徒用ワークシート」の複製による利用は、学問的な利用、教室・研究会等での利用に限ります。

特定非営利活動法人 開発教育協会(DEAR)

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-17-41 富坂キリスト教センター 2号館3階

Tel: 03-5844-3630 Fax: 03-3818-5940

E-mail: main@dear.or.jp URL: <http://www.dear.or.jp>

